

平成30年度 岐阜県水産研究所 研究発表会 プログラム

○開会あいさつ (13:30～13:40)

○課題発表 (13:40～16:00)

13:40-14:05 河川・農業水路・水田における生態系ネットワークについて
(米倉 竜次 専門研究員)

14:05-14:30 長良川における漁法ごとに漁獲されるアユの由来判別について
(大原 健一 専門研究員)

14:30-14:55 アユ遡上河川における効果的な放流時期について
(辻 寛人 研究員)

14:55-15:10 【 休 憩 】

15:10-15:35 溪流魚の人工産卵場:どんな川で造成するのが良い?
(岸 大弼 専門研究員)

15:35-16:00 アユカケの飼育特性について
(下村 雄志 研究員)

○意見交換(質疑等) (16:00～16:20)

○閉会(16:20)

※内容、発表順序等が変更される場合もございます。
あらかじめご了承ください。

平成30年度 岐阜県水産研究所「研究発表会」出席申込書

No	氏 名	所属 又は 住所
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		

【送付期限】平成31年2月19日（火）

【送付先】岐阜県水産研究所

FAX：0586-89-6365

E-mail：c24101@pref.gifu.lg.jp

<注意>

駐車場が大変混雑することが予想されますので、出来る限り、乗り合わせでの来場にご協力ください。

平成30年度 岐阜県水産研究所「研究発表会」 発表（予定）課題一覧

タイトル	発表者	内 容
河川・農業水路・水田における生態系ネットワークについて	米倉 竜次	淡水魚類を育む水田地帯を再生させるため、河川と農業水路との物理的な分断を解消し、淡水魚類の移動経路を確保する「生態系ネットワーク再生事業」が行われている。本発表では、この事業による効果（淡水魚類の種数増加が見込める）の高い地域の推定を、西濃地区および岐阜地区の水田地帯全域において行った結果を報告します。
長良川における漁法ごとに漁獲されるアユの由来判別について	大原 健一	長良川では、多様な漁法によりアユが漁獲されている。また、由来の異なる（天然/人工）アユが生息している。本発表では、「今後の資源管理」を検討するための基礎的データを得るため、長良川上流域において、漁法の違いによる漁獲アユの由来および形態的特徴の違いを調査した結果を報告します。
アユ遡上河川における効果的な放流時期について	辻 寛人	アユが海域から遡上する河川のうち、長良川のような大河川では「費用対効果の高い種苗放流の時期」に関する調査が十分に行われていなかった。本発表では、長良川において4年にわたり、放流時期の違いによる友釣りによる回収率等を調査し、その費用対効果を評価した結果を報告します。
溪流魚の人工産卵場:どんな川で造成するのが良い?	岸 大弼	アマゴ・ヤマメ・イワナの人工産卵場造成は、自然繁殖を促進する技術として注目されている。本発表では、溪流魚の産卵場所に関する調査結果をもとに、人工産卵場造成に適した河川の特徴やその選定方法について解説します。
アユカケの飼育特性について	下村 雄志	刺身や塩焼きにも対応可能な大型のカジカ類の養殖技術の確立は、カジカ類の特産品化を進める地域からの要望が強い。本発表では、その候補として有望なアユカケの、養殖技術の確立に向けた最適飼育密度の検討を行った結果を報告します。

中濃総合庁舎案内図



- 公共交通機関ご利用の場合 長良川鉄道松森駅から徒歩 20 分
岐阜バス加野団地線中濃庁舎から徒歩 1 分
- 車をご利用の場合 東海北陸自動車道美濃 I C から 1 分

<駐車場案内図>

